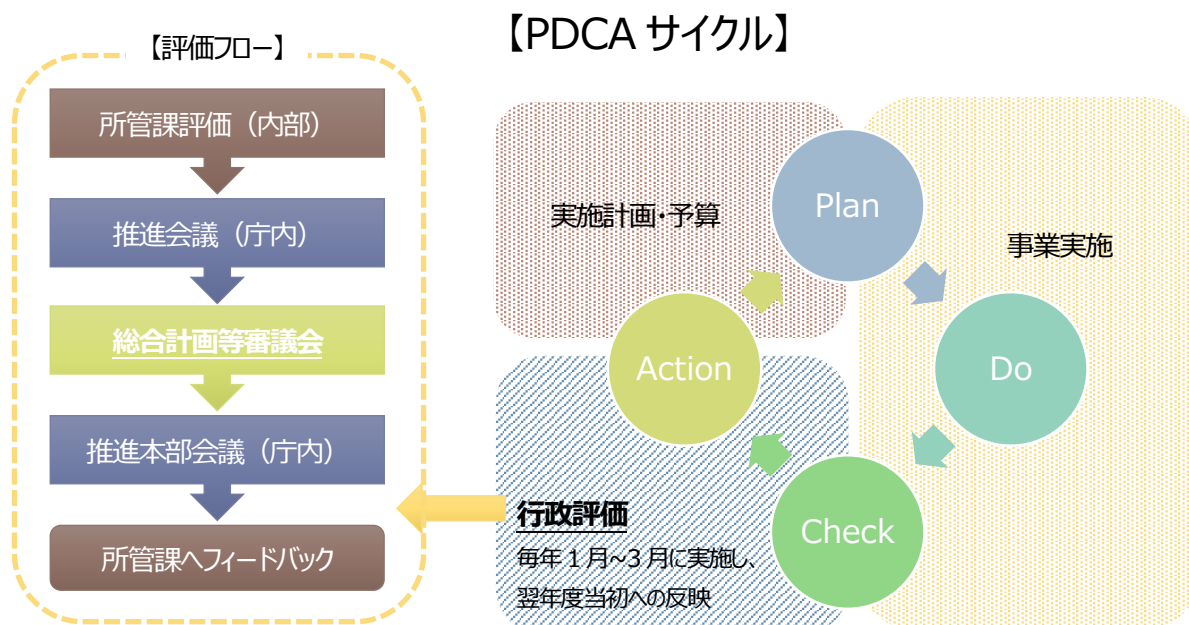


令和7年度行政評価の総括について

1 趣 旨

○令和3年4月にスタートした第6次基本構想・第1期基本計画、第2期キラリと輝く創生総合戦略（以下「基本計画等」という。）を着実に推進するため、毎年度**行政評価**を実施。



・基本計画等の策定段階から、ロジックモデル（目指す状態とそのため的手段を整理）を作成し、成果指標(数値目標・KPI・KSF)を設定することで、その進捗状況を適時確認できるよう設計。

2 評価方法

○①「令和7年度の評価（単年度評価）」、②「第1期基本計画の総括」を実施。

【評価対象：基本施策 131 本（基本計画 119 本、総合戦略 12 本）】

○評価フロー：所管課評価 ⇒ 推進会議 ⇒ （現在）**総合計画等審議会**

○基本施策の達成のため実施する取組の進捗状況を3段階評価し、その合計点により基本施策を5段階で評価。

【取組の評価区分】 ※具体的な取組の進捗状況により、取組ごとに3段階（A～C）評価

A：予定を上回り、順調に進捗したことで、目標を大きく上回った。

B：予定のとおりに進捗したことで、目標を達成した。

C：進捗に遅れが出たことで、目標を達成できなかった。

【基本施策の評価区分】 ※取組評価の合計点により、基本施策を5段階（5～1）評価

5：大きく進展した。

4：順調に進展した。

3：概ね順調に進展した。

2：多少遅れが出た。

1：大幅に遅れが出た。

3 令和7年度の評価（単年度評価）

【1】 令和7年度の評価結果一覧（分野別）

分野	分野名	評価区分 ※1					総計	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
		1	2	3	4	5		分野別 平均評価点	分野別 平均評価点	分野別 平均評価点	分野別 平均評価点	分野別 平均評価点
分野1	子ども・子育て支援			3	1		4	3.3	3.3	3.3	3.5	3.0
分野2	子ども・若者支援				1	1	2	4.5	4.0	4.0	4.0	3.0
分野3	学校教育		1	2	1		4	3.0	3.0	3.0	3.3	3.3
分野4	地域福祉			2		1	3	3.7	4.0	4.0	4.0	3.3
分野5	高齢者福祉			5	3		8	3.4	3.4	3.4	3.4	2.8
分野6	障がい福祉			2	3	1	6	3.8	3.7	3.8	4.0	3.8
分野7	健康づくり			1	5		6	3.8	3.7	3.7	3.3	3.0
分野8	スポーツ				5	2	7	4.3	4.1	4.3	4.0	3.1
分野9	文化芸術・文化財			1	2	3	6	4.3	4.2	3.8	3.5	3.0
分野10	生涯学習			2	2		4	3.5	3.5	3.3	3.0	2.3
分野11	人権・男女共同参画			2			2	3.0	3.0	3.5	3.0	4.0
分野12	地域コミュニティ			3			3	3.0	3.0	3.0	2.7	2.3
分野13	多文化共生・国際交流				3		3	4.0	3.3	3.7	3.3	3.0
分野14	防犯・交通安全			4	1		5	3.2	3.0	3.0	3.0	2.8
分野15	市民相談・消費生活			2			2	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
分野16	土地利用			3			3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
分野17	道路	1			1		2	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5
分野18	治水			2			2	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
分野19	水道			4			4	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
分野20	下水道		2			1	3	3.0	3.0	2.3	2.3	2.3
分野21	公共交通			2			2	3.0	3.0	3.5	3.0	2.5
分野22	環境			4	1	1	6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.2
分野23	公園・緑	1	1	1	2		5	2.8	3.2	3.2	3.0	2.8
分野24	住環境		1	3			4	2.8	2.8	3.0	3.3	2.3
分野25	商工			5	1		6	3.2	3.5	3.2	3.3	3.0
分野26	農業			1	1	2	4	4.3	4.0	3.8	3.3	3.8
分野27	就労			1	1		2	3.5	3.5	3.0	3.5	3.0
分野28	シティプロモーション				1	1	2	4.5	4.0	4.0	3.5	3.0
分野29	危機管理			1	1	4	6	4.5	4.2	4.2	4.0	3.2
分野30	総合行政			3			3	3.0	3.0	3.3	3.0	3.3
総合戦略			2	9		1	12	3.0	3.3	3.0	3.0	3.0
総計		2	7	68	36	18	131	3.5	3.4	3.4	3.3	3.0

「充たされた「つながり」」

「恵まれた「生活環境」」

「成長」の継続」

※2

※1 【評価区分】(再掲)

5：大きく進展した。 4：順調に進展した。 3：概ね順調に進展した。 2：多少遅れが出た。 1：大幅に遅れが出た。

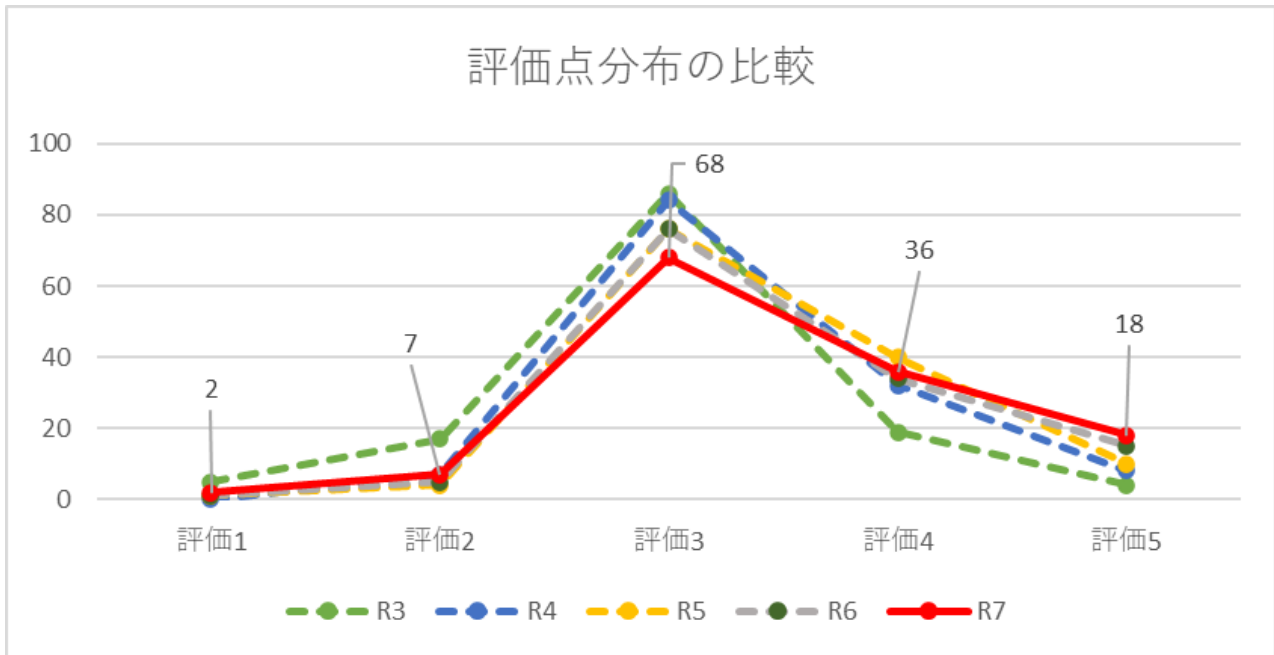
【令和6年度までの評価区分】

5：大きく進展している。 4：順調である。 3：概ね順調である。 2：多少遅れが出ている。 1：大幅に遅れが出ている。

※2【「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」】

第6次基本構想に定める理想の「未来」「充実した日々」を構成する要素として整理したもの。 計画冊子 P9参照

【2】 令和7年度の評価点の分布



	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	平均評価点
令和3年度	5	17	86	19	4	3.0
令和4年度	0	7	84	32	8	3.3
令和5年度	1	4	76	40	10	3.4
令和6年度	1	5	76	34	15	3.4
令和7年度	2	7	68	36	18	3.5
増減 (R6→R7)	+1	+2	△8	+2	+3	+0.1

・評価点分布は前年度より改善した。(平均評価点 昨年度 3.4⇒今年度 3.5)

・評価は令和7年度の実施内容とKSF(重要成功要因)の目標値の達成状況に基づき総合的に実施している。令和7年度は第1期基本計画の最終年度であり、成果がはっきり見える年度であることから評価3が減少し、評価1、評価2、評価4及び評価5が増加している。

【評価が高かった分野】

・分野別平均評価点が4.0以上となったものが7分野(分野2 子ども・若者支援、分野8 スポーツ、分野9 文化芸術・文化財、分野13 多文化共生・国際交流、分野26 農業、分野28 シティプロモーション、分野29 危機管理)となった。

○評価が高かった分野の進捗理由

・分野2 子ども・若者支援

子どもの居場所(子ども食堂や学習支援教室等)の維持、および学び直し相談の毎月開催を維持したほか、商工会や埼玉りそな銀行の周知協力により、若者を支援する企業サポーターが増加したことで、相談・支援体制の充実が図れたため。

・分野8 スポーツ

幼児、高齢者、障がいのある人など、多くの人々がスポーツに参加できる環境整備や体験会などのイベントを開催したほか、連携協定に基づきトップアスリートから直接学ぶ機会を創出した。さらに、大会誘致により一流のプレーを間近で観戦する機会を提供したことで、市民が多角的にスポーツに親しめる環境の整備ができたため。

・分野 9 文化芸術・文化財

文化芸術の中心施設であるキラリふじみにおいて、市民が文化芸術に触れるイベントの開催、文化振興基金の活用による文化活動の支援に取り組んだ。文化財については、開発等に伴う発掘や、適切な管理・展示による文化財の公開のほか、資料館・歴史公園を活用したイベント開催、地域伝統芸能の周知・継承活動支援に取り組んだため。

分野 13 多文化共生・国際交流

外国籍市民が安心して生活できるための相談体制整備や、広報富士見、外国籍市民のための生活ガイドによる情報発信などにより支援の拡充を行った。また、日本国籍の市民が外国籍市民への理解を深めるための国際交流フォーラムの開催や、姉妹都市であるシャバツ市やセルビア共和国との国際交流につながる情報発信を行ったため。

・分野 26 農業

安定した農業を継続するため、農地耕作条件改善事業の推進、農道・水路等の維持・改修に関する経済的支援や、農業の担い手である農業者への支援を行った。また、農業への理解を深めるための懇談会や農業マップの更新のほか、地産地消を推進するためのオリジナルシールやのぼり旗を配布したため。

・分野 28 シティプロモーション

ふわっぴー着ぐるみの貸出や、各種イベントへの PR 大使の参加により、市のイメージアップや愛着の醸成が図られた。また、Instagram での店舗取材のほか、JR 池袋駅・JR 川越駅構内への PR パンフレットの設置や、職員のマスメディア出演による PR 活動によりプロモーションを推進したため。

・分野 29 危機管理

災害対応体制を推進するため、備蓄促進のための出前講座開催や家具転倒防止器具取付の周知、自主防災リーダーの養成、自主防災組織の結成や小学校区等での防災訓練を実施したほか、災害対応体制の見直しや関係機関との連携強化を図った。また、危機管理事案への対応を想定したマニュアルの見直しや、受援計画に基づく図上訓練の実施、緊急時の情報収集や迅速な情報連携体制を維持したため。

【評価が低かった分野】

・分野別平均評価点が 3.0 を下回ったものが 3 分野（分野 17 道路、分野 23 公園・緑、分野 24 住環境）となっている。また、分野 17 は第 1 期基本計画の期間中は常に 3.0 を下回っていた。

○評価が低かったものの遅延理由

・分野 17 道路

生活道路の整備が進んでいるが、幹線道路は用地取得を進めているものの、地権者交渉に時間を要するものもあり、整備が進んでいないため。

・分野 23 公園・緑

新たな交流拠点として令和 5 年度にリニューアルオープンしたびん沼自然公園や、民間活力を活用した事業による地域活性化の推進、公園の整備・遊具点検等を含めた維持管理を実施し、誰もが利用できる環境の維持に努めたものの、湧水と緑の回廊については、整備を「大御庵の杜保全・活用事業」の中で検討するものとしたことで、整備が未実施となり、イベントへの活用もできなかったため。

・分野 24 住環境

空家の発生を抑制するための周知や、利活用・除却に関する取組を推進したほか、住みやすい環境づくりのため関係機関との連携や木造住宅密集市街地の改善に向けた取組の検討を図るなど進捗した一方で、計画的な市街地整備については、区画整理事業が予定どおり完了できていないため。

4 令和7年度の総括

令和7年度は、令和3年度にスタートした第1期基本計画の最終年度であり、行政活動を表すKSFの目標値達成のために事業を進捗させたことで、多くの事業において効果を確認することができた。

一方で、最終年度であることから、KSFやアウトプットであるKPIが目標値に達しない分野については、評価が低下するなど、第2期基本計画において取り組むべき課題や、KSF・KPIといった効果を図る目標値の設定についても、検討が必要な内容もあった。

前述の評価が低かった分野については、分析結果を踏まえて目標値の精査や課題改善に向けた取組の見直しなどを行い、評価が3.0以上の概ね順調に進展した分野についても、分野ごとの分析結果による課題を踏まえ、各施策の評価がさらに向上するよう取組内容を精査し第2期基本計画に反映したところである。

5 第1期基本計画の総括

令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間とした第1期基本計画については、令和5年度から令和6年度にかけて検証を行い、富士見市総合計画等審議会より答申を受けている。

答申では、第1期基本計画期間において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という、困難な状況でも対応や手法の工夫など、臨機応変に事業を進めたことで、多くの分野で順調に進捗したことに対し一定の評価をいただいた。

一方で、KPIの進捗について遅れが生じている事業については、遅れている要因分析等について精査を行い、今後も適切に事業を執行していく必要があるとの指摘もいただいている。

第1期基本計画の最終的な施策進捗としては、前述の令和7年度評価のとおりであり、5年間の全体評価についても令和5年度から令和6年度にかけて横ばいとなった期間はあったが、多くの施策について進展が見られた。

第2期基本計画では、大きく進展した施策については同水準を維持できるよう取り組み、遅れがあった事業については、分析した課題を踏まえ目標達成するように取り組んでいく。